

AUTOBACS SUPER GT 2020 SERIES Round.5 FUJI SPEEDWAY

October 3 - 4 2020

Qualify : 25th Race : 24th



仕上がりは過去最高も、コンディションとタイヤに大苦戦

2020 年の SUPER GT も前半戦を終え、新型コロナウイルスの影響で大きく変更されたカレンダーも後半戦を迎えた。第5戦の舞台は、今季3回目の富士スピードウェイ。開幕2戦で入賞を争った舞台だ。

そんなレースに向け PACIFIC - D'station Racing は、前半4戦を藤井誠暢とともに戦ってきたケイ・コッツオリノが海外から帰国後 14 日間を経過していないこともあり、出場に努力をしたものの急遽若手の篠原拓朗を起用することになった。篠原はスーパー耐久シリーズでも D'station Vantage GT4 を駆り好走をみせており、SUPER GT 出場経験もある。代役としては申し分ない存在と言えた。

迎えた第5戦のレースウィークは 10 月3日(土)の午前9時 15 分から公式練習がスタートした。今回から制限付きとはいえファンもふたたびサーキットを訪れており、朝からスタンドが賑わいをみせるなか、まず PACIFIC NAC D'station Vantage GT3 のステアリングを握ったのは藤井。6 周目にポンと1分 37 秒 489 というタイムをマーク。一度ピットインした後再コースインし、篠原に交代する。すでに事前にスーパー耐久的のヴァンテージ GT3 をドライブしていた篠原は、順調に走行をこなすと再度藤井にチェンジ。そしてまた篠原に交代というセッションをこなした。最終的な順位は4番手。一見すると好調のように見えた。

しかしドライブしていた藤井は、ある違和感を感じていた。走行開始直後などコンディションがまだできあがっていない状態は速いが、路面にラバーが乗るとタイヤのグリップが失われてしまう。セットアップやフィーリングは抜群に良いのだが……。

この不安は、午後2時にスタートした公式予選でも的中してしまう。ノックアウト予選 Q1 のA組から出走した PACIFIC NAC D'station Vantage GT3 は藤井がアタックを務め、Q2 の篠原に繋ぐ作戦だったが、すでに路面コンディションができあがっている状態で思うようにタイヤがグリップを發揮しない。あの藤井がノーミスのアタックを展開したにも関わらず、1分 37 秒 914 というタイムは公式練習のベストにも及ばない。順位も 13 番手で、最終的にグリッドは 25 番手というものになってしまった。

迎えた 10 月4日(日)の午後1時 30 分からスタートした決勝レースでスタートドライバーを務めたのは、自身 SUPER GT で初めてのスタート担当となった篠原だ。今回は篠原が混戦をくぐり抜け早めにピットイン、後半藤井が長いスティントで飛ばすという作戦を立てていた。

篠原は期待に応え、1周目からセーフティカー導入となる展開のなか、リスタート後7 周目までに3 ポジションアップ。#18 NSX-GT とバトルを展開し 16 周目にオーバーテイクを成功。しっかりと序盤戦を戦

い抜き、予定どおり 20 周を終えピットイン。藤井に交代する。このタイミングも功を奏したほか、メカニックたちの作業も速く、ライバルたちがピットインを終えると、藤井は8番手にポジションを上げてみせた。PACIFIC NAC D'station Vantage GT3 は、土曜の公式練習からセッティングをほぼ触っていないほどフィーリングは良好で、今季最上位も見える順位だった。

しかしレース終盤に向けて、コクピットの藤井は苦闘を強いられはじめた。公式予選でも出ていた、路面のコンディションに対してタイヤのグリップが失われてしまう症状が出てしまったのだ。8番手ではあったが、この状態で走行を続けてもグロウ抜きされてしまうのは火を見るより明らかだった。藤井は 47 周を終え、ふたたび PACIFIC NAC D'station Vantage GT3 をピットに戻さざるを得なくなってしまった。その後コースに戻った藤井は異なるタイヤで快走。フィニッシュ前には周囲が違うマシンに前を塞がれてしまったが、それは表彰台争いをするメンバーだったのだ。スピードがあるのは間違いなかった。

ドライバー、チーム、そしてヴァンテージ AMR GT3 と、ピースは今までになく揃いつつある。あとわずかのピースがハマれば、トップは近いはず。24 位という順位は悔ししかないが、PACIFIC - D'station Racing のメンバーは前を向いた。



Race Report - 2020.10.06

COMMENTS

**Motoki Jinno** PACIFIC - D'station Racing Team Representative

結果としては残念なレースとなってしまいましたが、スピードもあり、クルマも非常に良い状態になっています。またドライバーも素晴らしい仕事をしてくれましたし、メカニックたちも良い作業をみせ順位を上げてくれました。今回は特にタイヤで悩まされるレースになってしまいましたが、この問題をどう克服していくかが今後結果を残すために重要なポイントだと思っています。この経験をしっかりと次に繋げ、上位進出を目指していきます。引き続き皆さまの応援宜しくお願い致します。

**Satoshi Hoshino** D'station Racing Team Principal

土曜の公式練習からクルマのフィーリングも良かったようですし、レースでも序盤からふたりのドライバーも素晴らしい走りを見せてくれましたが、レース中盤以降残念ながらタイヤがもちませんでした。一発のタイムに關しても、ロングランについても難しい状況で、タイヤについては苦戦してしまっていますね。ただ、ヴァンテージ AMR GT3の状態はすごく良いようですし、次戦鈴鹿ではなんとか上位を目指したいと思っています。スーパー耐久でこの悔しさを晴らしたいですね。応援ありがとうございます。

**Kazuhiro Sasaki** General Manager

前回のもてぎでのレースも残念ながら結果は残りませんでしたが、すごく良いレースをしていてくれました。今回は公式練習では序盤に藤井選手がすごくいいタイムをマークしてくれて順位も上だったので、午後の公式予選でいきなり苦しい展開になってしまい驚きました。レースでも篠原選手がすごくいい走りを見せてくれて、チームも良い仕事をして藤井選手が順位を上げてくれたので、結果が残るのではと楽しみでしたが、タイヤが苦しくなってしまいましたね。次の鈴鹿もタイヤには厳しいはずなので、なんとかしなければいけません。

**Tomonobu Fujii** Driver

決勝レースは後方からのスタートだったこともあり、早めにピットインする作戦を採りましたが、これがうまくいき順位を上げることができました。その後は空いたスペースで速さもあり、トップと同じくらいのペースで走っていたのですが、路面によって他車のゴムを拾ってしまうこともあり、摩耗が厳しくなってしまいました。順位を守ることもフィニッシュも難しかったのでピットインしましたが、厳しいレースになってしまいましたね。クルマの状態は良いので、次戦また上位を目指していきたいです。

**Takuro Shinohara** Driver

今回チャンスをいただき、事前にスーパー耐久用のマシンを乗らせていただいたのですが、やはりSUPER GTの雰囲気の中で戦えたことは貴重な経験になりました。土曜の公式練習では戦える手ごたえがあったのですが、公式予選から少し噛み合なくなってしまうでしたね。レースは初めてのスタートでしたが、混戦のなかでフィーリングも良く、積極的に攻めることができました。個人的には順位を上げられたので良かったです。最低限の仕事はできたと思いますが、もちろん課題もありますし、チームとして結果が残せなかったのは残念でした。


pacific-racing.jp / dstation-racing.jp

[@pacificracing](https://twitter.com/pacificracing) / [@dstation_racing](https://twitter.com/dstation_racing)

[DstationRacing](https://www.facebook.com/DstationRacing)

2020 NEWS
RELEASEVol. **6**

PACIFIC
RACING TEAM










愛知電線
AICHI ELECTRIC WIRE


東邦ロジスティクス
TOUHO Logistics



Fujita Corporation

ナリーエンタープライズ
NALLY ENTERPRISE INC.
Valuable Information for you


UMEDA
GROUP


中日本氷糖株式会社



ホームプランナー
HOME PLANNER
Real estate service


新英金属株式会社



HOUSER

シンコーグループ
新晃薬品株式会社



DPS
DESIGN PRINT
SQUARE
design-p-s.com


GT-300CLASS Car NO.9
PACIFIC NAC D's station Vantage GT3